

令和 7 年度第 1 回					作成日	令和 7 年 6 月 29 日	
甲山森林公園管理運営協議会議事録							
(あり方検討抜粋)							
日時	令和 7 年 6 月 24 日(火)	時間	14:00	～	16:15	記録者	具志堅 葉子
場所	甲山森林公園管理事務所ビジター棟 会議室						
出席者	計 31 名						
内 容							
<p>※ 配布資料</p> <p>資料 1 県立都市公園のあり方検討会について</p> <p>資料 2 「県立都市公園のあり方検討会」提言【概要版】</p> <p>資料 3 「県立都市公園のあり方検討会」の提言を受けた県立都市公園の整備・管理運営方針</p> <p>資料 4 甲山森林公園について</p> <p>資料 5-1 検討に当たっての基本的な考え方【自然環境保全】</p> <p>資料 5-2 ゾーニング図 A</p> <p>資料 5-3 ゾーニング図 B (森の使い方プラン「これからの使い方」)</p> <p>資料 6 検討に当たっての基本的な考え方【活性化】</p> <p>参考資料 1 兵庫県立都市公園の整備・管理運営基本計画概要</p> <p>参考資料 2 兵庫県立甲山森林公園リノベーション計画 (概要版)</p> <p>参考資料 3 県立都市公園における自然環境保全に関する基本的な考え方</p> <p>参考資料 4 県立都市公園における活性化に関する基本的な考え方</p> <p>1. 開会</p> <p>(1)出席者自己紹介</p> <p>(2)定足数確認</p> <p>(3)会長選出</p> <p>2. 協議事項</p> <p>(1)『甲山森林公園のあり方検討について』（兵庫県 公園緑地課 横山麻裕）</p> <p>※資料 1～6 及び参考資料 1～4 公園緑地課より説明</p> <p>山崎 最終的にこの公園をどうするかだが、県からは協議会を通してルールを作り、承認の過程をどうするかなどを問われている。活性化はどういう風に使い方を広げるのか。本当に広げられるのか。今 100 万人の入園、これが限界ではないか。道路や駐車場が不足なのではないか。そこも含めてどう考えるかである。ご意見をいただきたい。</p> <p>野澤 たくさんの人がいることが嬉しい人と、自然があるのが嬉しい人とで変わってくる。現状では自然を楽しむ人が多いことから、人込みになると快適ではなくなる。ほとんどの場所では人がいないが、芝生広場は人が多いというような状態で良いのではないか。公園全体が人込みにな</p>							

ってしまうと快適ではない。そのための新たなゾーニングが必要である。

山崎 ゾーニングで解決できることもあると思う

野澤 管理側で決めなくても、既に噴水周辺や芝生広場など人が行く場所は決まっていて、勝手にゾーニングがされている。そういう作り方で良いと思う。その場所のキャパが決まっているので、混みすぎると新たな問題が起こると思われる。

大藪 改変をするときに3ヶ月前から公表する必要があるなど規制が厳しい。森の使い方プラン基本方針1などは、ゆるやかに出来るエリアとして例えば里山的な優先樹種をモデル的な施業によって管理するエリアを作り、そこは積極的に手を入れるなどのやり方もある。基本方針の2については、どこを通ってもそれなりに皆が自然を享受できるというような適度な森林管理の上に成り立つ。基本方針3の子どもから年寄りまでできる森遊びは、適切な林分があって、また史跡など資産を活かして巡る園路を整備するなどが考えられる。来園者のキャパという話もあったので、どういう交通手段で来園するのか、どういう形で入れていくか、この協議会で絵をかきながら具体的に落とししていく必要がある。

山崎 ゾーニングに関しても意見が出てくる可能性がある。

大藪 すべきエリア、放っておいてよいエリア、放っておくべきエリアなど、もう少し考えていくことが重要。

山崎 渡り鳥の通り道にもなっている。なかよし池では野鳥観察者から、この樹は古いけど置いておいてほしいなどと言われている。危険だから伐るというレベルではない。意外に難しい。

杉田 30年前にはなかよし池ではバンが毎年繁殖し、浮巣を撮影する人が多かったが、阪神大震災以降消えてしまった。浅い池では浮巣は難しく水鳥さえ難しい。カワセミがいるのと、今はクイナが採餌に来ているのがこの数年のニュース。周辺にはキビタキがここ10年の間に3ポイントで声を聴けるようになり繁殖が増えた。最近は見かけない人が入ってきて一部はマナーが悪く、なかよし池付近の住民とバードウォッチャーとのトラブルが多くある。鳥屋は鳥に夢中になるとモラルに反することを。珍しい鳥がでたりすると周辺は両側に車が縦列するような状態になる。30年前と比べると駐車場が増えてから一般の人が増えた。良いことだと思う。トイレは誰もがほめる。評判が良い。

山崎 子育てに資する公園構想の中でこの事務所の改築も含めて幼児教育の専門家として入ってきた。さらに市民ボランティア活動も含めて支援している。樹を伐ることにも関心がある。森が原生林化していくのが良いことなのか。それらもはっきりとしていかないといけない。巨木化してきたなかで環境が里山から離れてきている、その調整が必要。放っておく場所も必要かもしれないし、多様な生物の場所をと考えると、より里山的に作る必要もあると考える。ゾーニングをうまくできるかが、甲山のポイントだと思う。

杉田 植物園は駐車場が有料だが、花が綺麗なことから休日は駐車場が満車になる。桜の頃は路上駐車も増える。甲山周辺は山間地であることから受入れは限界だと思う。ここは自然公園、あちらは花畑。植物相が単純なほど野鳥の種類が決まったものしかいなくなる。甲山森林公園では、植物は増やす方向を願いたい。

首藤 ゾーニングAを提案させていただいているが、施設も含め県としては拡張を考えていない。森全体をあまり触らない方針としている。⑤の森林は、森遊びのゾーンで茂っているところを間伐して使いやすくするというエリア。予算も限られており、①水辺は、生物多様性の場所でも

あるので、できるだけ間伐していききたい。③の施設周辺と④の園路は倒木が最近が多い、巨木化もしているため、施設周辺は安全安心のため、眺望のため、集中的にお金をかけて伐っていききたい。そのほかの②は、お金の限度があるため、手を入れるのは難しいと考えている。目標植生図は森自体に手を入れてという主旨であるが、現状手を入れるのは難しいと考えているので、目標はかなり変わってきていると考えている。予算上の話もあって、施設周辺には安全安心のために手を入れるが、そのほかはそのまま残していく考え。一部モデル的にはポイントで手を入れることはできると考えている。これに対して意見をうかがいたい。

大藪 目標植生について、アカマツの大木は少ないが甲山自然の家付近の尾根筋にアカマツの実生がある。そこをしっかりと管理して、こういうことが里山のアカマツ林管理だと見せていくこととか、枯木や落ち葉を取り除き山火事の延焼がひろがるのを防ぎ、コナラと共生するキノコが生える林にしていくなど、防災的にも整備する、あるいは指標種をめがけて管理するなど良いと思う。鳥や植生などで、目標とするような種を少しずついれて、それを目指して頑張っているというのがあると良いと思う。

山崎 コバノミツバツツジを目指す団体があることはある。それが人を呼ぶかどうかは場所による。コバノミツバツツジは間伐すれば必ず咲くが、それ以外は難しいと考える。日当たりのよい場所が逆に減っている。里山が荒れているので、田んぼの脇にあったワレモコウなどが減っている。野外ステージの辺りなどは可能性があるかと考えたりする。ノカンゾウも変なところにはあるが、部分的にしかない。日当たりの悪さが原因と思う。日当たりのよい場所は芝生広場だけで、自由広場は刈込すぎである。

大藪 甲山自然の家では薪を売っていた。間伐材などの活用はどうしているのか。

田村 薪材は13年前から自前で作ろうと計画をたて、委員会をつくりエリアを決めたが、ナラ枯れが始まりそれどころではなくなった。しばらくはナラ枯れの間伐材を使ったが、今はどうしようか考えているところ。まとまった面積でコナラが揃っている場所はなく、混交林になってしまっている。このままだと、ユーザーの思いと森林の内容が異なってくるのではないかと心配。ユーザーが求めていることが何なのかが知りたい。

中澤 この公園についてクレームはない。トイレはキレイ。しいて言えば坂を上るのが大変な程度。阪神バスの便が減って、盛んに利用していた人たちが80代となりなかなか行けず、早朝の体操や太極拳などでの利用のみ。不平不満はない。このままのカタチで現状維持が良いと思う。パーベキューでうるさい、駐車マナーが悪い、騒音などの問題がこの公園の利用客には全くない。近隣住民としての意見は、高齢化社会への見守り方を行政のどこかで示して頂けると嬉しい。

田中 子どもが小さい時は車で良くきていた。アンケート結果では「犬の散歩」がダントツ多い。人を呼び込むと嬉しい人もいるが、子どもと来るような、また犬の散歩や鳥の観察などの人は密集すると困るので、自然を残しつつ日陰が多い方が涼しくて助かる。バランスを見ての伐採管理も必要と考える。休日は駐車場が満車で、入園をあきらめることも多い。そこをどうにかして欲しいと思う。

山崎 以前も駐車場有料化などの話題があったが、協議会でそこまで踏み込むかどうかも課題。100万人規模をある程度維持できる環境をどう確保するか、ということはあるが、それ以上にしようとするとも駐車場や道路なども考える必要があり難しい。ルールづくりなど細かい手数がかかる。甲山では協議会のなかで調整できるのであれば、ここまで細かく決めなくてもよいのでは

ないか。さまざまな意見を集約するとここまで必要ない。

首藤 ルールは明石公園をベースにしており、伐る樹をひとつひとつ住民が考えるようにしている。HPの発信の仕方明石公園が一番厳しいと考える。他の公園ではここまでのルールはあまりない。そこまでは協議会で考えていただければよい。

杉田 明石公園は野鳥が有名。都会の中の公園でここは環境が違う。甲山は野生の自然、六甲山の一部。管理を自然に委ねる場合もあると思う。明石公園のように神経質になる必要はない。

首藤 明石公園ではナラ枯れがあっても合意と検証がないと切れないというのが現状となっている。そこまでは甲山では必要ではないと考える。

杉田 来園者のキャパの問題。確かに、70歳代にもなると車以外ではここに来ることができない。仮に人が増えて人込みになることを考えると、どんどん人を呼ばばよいということではない。

山崎 活性化というが、人を取り込むことだけの問題ではない。環境保全ということも鑑みて、両立させる必要がある。多様な使い方として、消防の人たちの訓練を許容できている公園は面白い。樹にロープをはったりできる場所として使われている。新しい利用方法を許容できる場所であると良いと思う。

野澤 文化財の保全も目的としながら、樹木伐採よりは里山保全の伐採ということだと思う。性質が異なるので、そのためのルールの期間を長くにとって整備計画を作っていく、計画ができれば、柔軟にできるだけスピーディに伐採等が出来たらと思う。一か所だけ、樹を切っている状態をみて残念に思うことがある。高圧線の下での樹の切り方（関西電力）は、カッターを使って一斉に伐っており、保全とは無縁のもので反対したい。

首藤 高圧線の下は見えていない。ゾーニングで長期的な計画というご意見は盛り込んでいきたい。

勝野 活性化について、年間100万人利用されているのがキャパを超えているのかを議論いただきたい。バス便、駐車場、入園者を増やすのであれば公共交通が有利であるし、駐車場の空きをHPで随時知らせるなど、さまざまな利用促進方法がある。積極的に増やすのか、現状が良いのか、今既にオーバースペックなのか。

吉岡 はるまつりの時の入園者が最も多いと思うが密集という感覚はない。年間でそれ以上に混む時はないと思う。はるまつりの日の駐車場は足りないが、バスで来たら特典がある、出店者に呼び掛けて車を減らすなどの取組みはしている。既にいろいろやっているのだから、これ以上車を減らす努力は疑問。第5駐車場は混むが第3駐車場は遠くて空いている。私個人は駐車場に困ったことはない。年間100万人は大したものだと思う。200万人をめざすかということではないと思う。100万人がいかに満足して帰るかだと思う。ゾーンごとに実生を育てるなどは、ゾーンごとで考えると良い。管理事務所がイベントを開催して集客している、その中で考えればよい。この協議会を3回するなかで、管理事務所が新しいことをしようとするときのルールづくりをするのか、駐車場をどうするかなどの枝葉の部分の協議しようとしているのか。枝葉を決めたいのであれば、具体案がないと議論できないと考える。策定したいと言われているものの具体がない。

首藤 枝葉の部分ではなく、公園の方向性を決めたい。自然環境の保全と活性化2つのテーマで進めている。積極的に間伐する方向性と、樹木伐採のルールづくりを決めたい。活性化については、協議会などの仕組みをこのメンバーだけでなく、一般の人の意見を聞く場を作るなどするか、という議論をいただきたい。

- 吉岡 伐採して良いところと伐採に注意が必要なところがある。高圧線の下で被害があったと考えるのは桜である。人が入らないようなエリアには利用者は関心がない。県が適切な樹木密度を決めて合意をとる、などの方向性を決めてほしい。活性化の取組みに関しては指定管理者にお願いしているので充分と考える。
- 首藤 施設周辺以外は手を入れられない。
- 吉岡 予算に限界があるのは承知しているが、何年かに1回は手を入れないと難しいと考える。話し合った結果、今は難しいというのは受け入れられるが、仕組み検討の内容がないので、この3回の協議会で決めることができるのかと思う。
- 田村 ゾーニングだと自然保全重視になると考える。手を入れていいような場所がゾーニングされていれば、利用者皆さんの力でできるような取り組みが可能となる。関電エリアは計画を低木林に設定してしまえばよい。現実に応じて無理のないようなゾーニングが良い。
- 吉岡 予算がかからないような計画が理想である。トイレもキレイになり、なかよし池の木道も完成する。
- 杉田 200万人になるようなことはない。
- 吉岡 コロナ禍の時はすごく増えた。あれ以上の集客があることはないと考える。
- 杉田 野外ステージはもったいないと思う。
- 吉岡 野外ステージでは、はるまつりの時にちょっとしたオーケストラが来たり、ウッドワークをしたりしている。
- 杉田 なかよし池からテニスコートの横の川沿いを通して甲山の登山道に行く道の橋が落ちている。ハイカーなど利用者も多いが管轄外なので修理することは難しいのか。
- 川田 西宮市の管轄になると思う。甲山森林公園の管轄ではない。
- 山崎 議論はここまでとし、第2回の内容を含めた検討事項を会長に任せていただきたい。